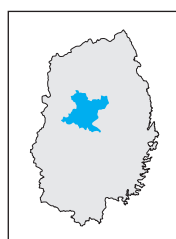


私のふるさと



古舘
安藤 香 さん



岩手県
盛岡市

本州一広い岩手県。その内陸部にある「盛岡市」が私のふるさとです。

歴史と伝統文化が残る街で、東京駅と同じ辰野金吾さんが設計した赤レンガ館や、江戸時代から続く老舗雑貨店が並んでおり、南部鉄器・竹カゴ・顔くらいあるタワシなど、面白いお店が連なっています。また、宮沢賢治や石川啄木など文豪が青春を過ごした街でもあり、盛岡城下の川沿いは散策コースとしてお勧めです。

名物グルメと言えば「盛岡三大麺」。冷麺・じゃじゃ麺・わんこそばです。ちなみに、当時私はわんこそばを100杯食べました！きっと今は無理ですが…(笑)。岩手に行った際は、ぜひ食べてみてください。

須賀川には震災後、仕事の都合で移住しました。まず衝撃だったのは、とにかく坂が多いこと！Googleアースの地図の距離と、実際歩いたときの体感距離は全然違いました。単なる体力不足かも知れませんが…。

また、おいしい野菜や果物、そして親切な人が多い街だなあと感じました。素敵なイベントもたくさんあり、かつこいいtetteや、起業者にはトライしやすいRojima、GO TORCHなど、変化しつつある須賀川市。大変面白いです。これからもウルトラな進化を期待しています。

tette 情報



tetteでは、感染症対策を取りながら、順次講座を再開しています。詳しくは、tetteホームページでご確認ください。参加するときは、感染防止にご協力をお願いします。



tetteホームページ



TETTE.SUKAGAWA
tetteインスタグラム

■ tetteスクールなど

市民交流センター ☎(73)4407

tetteライブラリーシアター 「シュレック」

10月10日(土) 午前10時～11時30分 ※先着50人

tetteシネマ 「おかあさんの被爆ピアノ」

▶映画 10月24日(土) 午後6時～8時

※tetteオフィス(1階)で事前にチケットをお求めください(定員50人)。

▶被爆ピアノコンサート 10月27日(火) 午後6時30分～7時30分 ※先着30人

■ tette動画を配信中

tetteスクールオンライン

●FMコラボ「落語のスズメ」

おうちでできる

tetteスクールファミリー

●かけっこマスター

こどもセンターからのおくりもの

●ハロウィングッズをつくろう

季節イベント

●おりがみでアマビエをつくろう



かけっこマスター

■ こどもセンターだより

こどもセンター ☎(76)6687

子育て支援講座 「助産師さん相談会」

10月15日(木) 午前10時～11時30分 ※事前申込

子育て相談会

10月22日(木) 午前10時30分～11時30分 ※先着3組

親子イベント 「ハロウィングッズをつくろう」

10月28日(水)からキットを配布 ※事前申込

■ 図書館だより

中央図書館 ☎(75)3309

こども読み聞かせ会(読み聞かせの会ポケット)

10月10日(土)・24日(土) 午後2時

※自由参加(人数制限あり)

おひざにだっこのおはなし広場(お話の会ラ・ポム)

10月21日(水) 午前11時 ※自由参加(人数制限あり)

リサイクル広場

10月24日(土)～11月1日(日) 午前9時～午後5時

熱く語れ！コミックビブリアバトル

11月7日(土) 午後1時30分～3時

発表者(中学生以上)を5人募集しています。

※観覧自由

サークルとわたし



ゆうすい
遊水会

代表者 八木沼 義信

会員 18人

発足年月 平成14年11月

連絡先 ☎(67)2055

活動日 年間を通して不定期

活動場所 江花川

20年前、江花川は川面が見えませんでした。河川敷には草木が生い茂り、不法投棄された瓶や缶が散らばりごみが堆積し、大変荒れていました。水質悪化も進み、川に元気がないように見えました。

子どもの頃に魚捕りや水泳ぎをして遊んだきれいな江花川を何とか取り戻したいと「遊水会」を立ち上げ、川の水質保全を目指しました。現在は地域の小・中学校で「せせらぎスクール」を実施し、水環境の講話や水生生物による水質調査を行っています。自然に触れることで、子どもたちが川への愛着を持つきっかけになればと願っています。長沼地域文化祭にも参加し、江花川の水質や河川環境について、地域の皆さんへ啓発活動も行っています。

清らかで美しい川を将来に残せるよう、これからも力を合わせて努力したいと思っています。



ふるさとの遺産

須賀川アルバム

No.314

－昭和の記録写真から－

神炊館神社の御鉾廻り
(昭和30年代)



境内を廻る御鉾と神馬

神炊館神社では、秋の例大祭のとき「御鉾廻り」という神事が行われます。一年に一度、内陣から遷した御鉾を3人の神官が奉持し、本殿の周りを三度廻り、境内を清めます。

御鉾は、長さ5尺(約150センチメートル)の櫓の木に、上部には毎年新しい萱と桷を飾り、その左右に鉄製の鉤型を取り付けます。胴体部分は、前年の祭礼で町内の厄災を祓った御幣(祭礼に用いる特殊な紙)を麻ひもで結わえて造られています。

流鏝馬が行われていた名残から、昭和30年代までは3頭の神馬も従えていたようですが、農耕や移動に馬が使われなくなり数が減ったことなどによって、現在はこの神事で馬の姿を見ることはなくなりました。

全国に類例を見ない珍しい神事で、長い神社の歴史とともに現在に伝え残されています。

博物館 ☎(75)3239